

森林管理署長等が語る！

福島森林管理署白河支署長 飯村 善美

はじめに

「森林管理署長等が語る(福島森林管理署白河支署)では、歴代の支署長が白河市の史跡等や管内の森の巨木100選などを紹介しておりますが、平成29年10月号で白河支署の概要(取組事項)を紹介してから、9年が経ちますので、今回は白河支署の概要(取組事項)を紹介させていただきます。ちなみに、白河支署の庁舎も立て替えてから9年目になります。

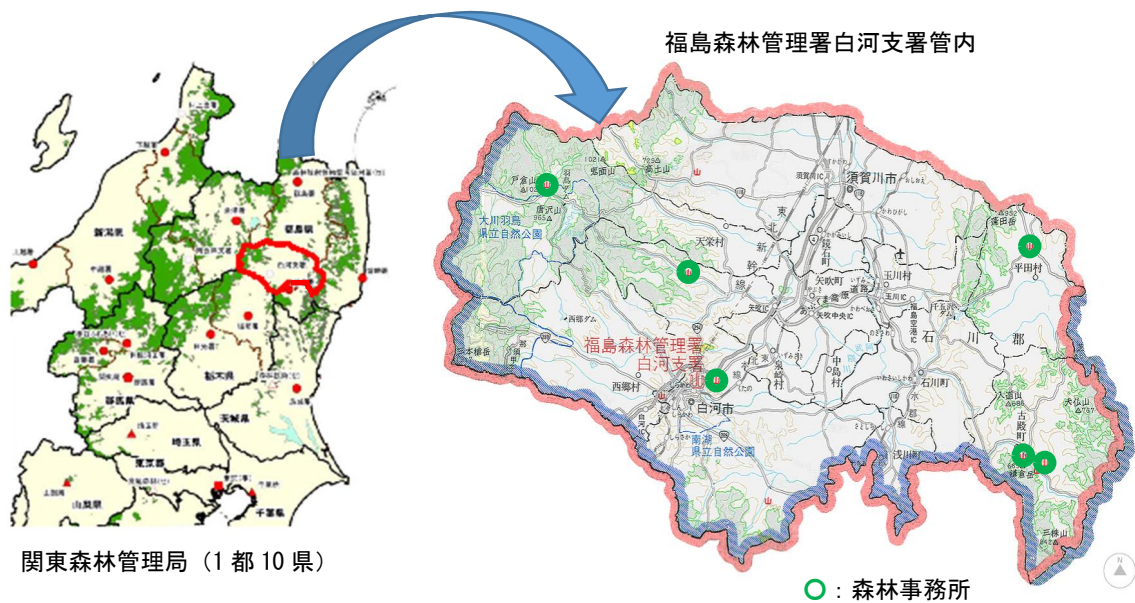


福島森林管理署白河支署庁舎

1 管内概要

福島森林管理署白河支署は、阿武隈川森林計画区内の福島県中通り南部に位置し、管轄する2市5町6村のうち、白河市、西郷村、須賀川市、天栄村、古殿町、平田村、玉川村の7市町村に所在する国有林野約3万4千haを管理しています。

管内の人工林は、阿武隈高地や八溝山地の豊かな森林資源に恵まれ、古くから木材生産が盛んに行われています。また、優れた自然景観を有する天然林は、日光国立公園や大川羽鳥県立自然公園などに指定され、山岳地帯においては登山、都市近郊にあっては、ハイキングや自然観察など、森林レクリエーションや保健休養の場として四季を通じて多くの人々に利用されています。



2 令和8年度事業予定量

令和8年度の事業予定量は以下の表のとおりです。収穫量は87,000m³、素材生産量42,000m³（局内3番）、植付147ha、（局内1番）、下刈483ha（局内4番）など局内でも事業量の多い署になります。

収穫量		販売量					
主伐	間伐	立木	製品	うちシステム販売	活用型のうち列状間伐	うち一貫作業(地拵)	土石
49,458m ³ (57%)	37,516m ³ (151%)						
86,974m ³ (78%)		28,428m ³ (217%)	42,000m ³ (120%)	33,500m ³ (118%)	100%	21ha (60%)	158,524m ³ (85%)

造林事業							林道	治山
地拵	植付	うちコンテナ苗	うち花粉対策苗	下刈	つる切	除伐・除伐Ⅱ類	新設(1路線)	山腹工(2箇所)
63ha (50%)	147ha (148%)	147ha (148%)	85ha (163%)	483ha (110%)	4ha (13%)	46ha (45%)	120m (30%)	0.39ha (122%)

() は対前年度比

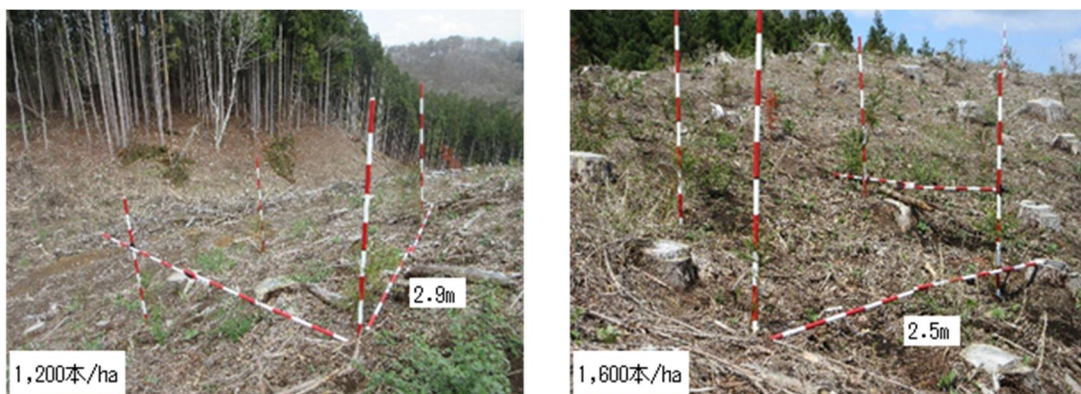
3 主な取組事項

(1) 森林整備の推進

水源のかん養や山地災害の防止、地球温暖化の防止など、森林の持つ公益的機能の維持・増進とともに森林資源の質的充実を図るため、森林の整備を行っています。

主伐期を迎える中で、再造林の低コスト化が喫緊の課題となっており、コンテナ苗を利用した「伐採と造林の一貫作業システム」の導入や、成長に優れた優良品種の開発、早生樹の導入などの検討が進められています。

低密度植栽技術の導入も低コスト化の選択肢の一つとして期待されており、令和7年度には、管内に低密度植栽試験地（1,200本/ha・1,600本/ha）を設定しました。苗木購入費や植栽に要する労務費が削減されるだけでなく、下刈コストの削減や主伐までの間伐回数を減らすことによる全体的な育林コストの削減も見込まれており、今後追跡調査を実施することとしています。



低密度植栽試験地

また、令和8年度には、スギ・ヒノキの植付の際に林地施肥（超緩効性肥料）を試験的に行い、生育を促進することにより下刈コスト削減の可能性を検証していくこととしています。

今回は、「マウントキングS」という超緩効性肥料を使用しています。肥効期間は2年から2年半で従来の超緩効性肥料と比較しても肥料の効果が長く続くのが特徴になります。中部森林管理署木曽森林管理署で試験的に実施した結果、樹高成長量は無施肥よりも圧倒的に大きく、下刈コストの削減に大きく貢献できる可能性が示されており、期待するところです。



マウントキングS（超緩効性肥料）

（2）木材の安定供給

林産物を持続的かつ計画的に供給し、地域における林業・林産業の振興などに応えられるよう、林産物の供給に努めています。令和8年度の製品生産量は42,000m³を予定しており、JVを含めた6事業体により事業を実行しています。

販売については、国有林材安定供給システム販売により、地元の製材工場等2社と協定を締結し、33,500m³の販売を予定しています。委託販売は3市場において、8,500m³の販売を予定しています。また、令和8年度は、土場活用委託販売を当支署で初めて実施する予定です。既存の土場を活用することで、顧客への直送販売が可能となり、委託経費を抑えることができます。

また、国有林材安定供給システム販売、市場委託販売、土場活用委託販売、自署公売など、多様な販売方法の中から、出材・品質・市況状況等に応じた最適な方法を選択することにより、有利販売を図ることができます。



高性能林業機械による木材生産（製品生産）



生産された丸太（システム販売材）

（3）路網整備

林産物の搬出や森林整備の効率化を図るため、丈夫で簡易な規格・構造の林道開設や改良工事を計画的に進めています。

令和8年度は、白河市にある黄金沢林業専用道の新設124mを予定しています。黄金沢林業専用道は、令和4年度から着手し、総延長3,400mのうち、1,260mを開設、令和18年度の完成を目指しています。



林道開設（黄金沢林業専用道）



改良工事（旗宿・金山林道）

（4）国土の保全

国民の生命・財産を山地災害から守ることを目的として、森林の公益的機能を十分に発揮させるため、治山事業により森林の防災機能を維持増進させています。

令和8年度は、山腹工2箇所を予定しています。天栄村の戸倉山国有林において、平成22年9月より度重なる災害によって発生した崩壊箇所の拡大及び表面侵食等を防止するため、戸倉山復旧治山工事を施工し、斜面の安定と早急な植生導入を行い、森林機能の回復を図っています。本工事は、令和9年度完成の予定です。また、地元要望を受けて、天栄村、二岐温泉上流の二俣国有林において、湯本地区復旧治山工事を施工し、温泉源等の保全対策を実施しています。

戸倉山復旧治山工事



法面崩落災害（H23.7）



法面復旧（R7.11）

(5) 国有林の活用

地域の要望に応え、公用・公共用の事業用地や地域の産業の振興、福祉の向上等を目的として、国有林野の貸付等を行っています。

白河支署管内においては、令和7年度末現在で貸付契約及び使用許可・使用承認は、件数は701件、面積は約661haとなっております。



越代のサクラ（古殿町）
天然記念物管理用地敷



羽鳥湖遊歩道（天栄村）
歩道敷

(6) ニホンジカの生息分布

白河支署管内では、まだ深刻な林業被害は確認されていないものの、一部地域においては食害が見られており、近年被害状況が周辺地域へ拡大しつつあるため、令和8年度からニホンジカ対策として、植栽木に忌避剤散布を実施します。

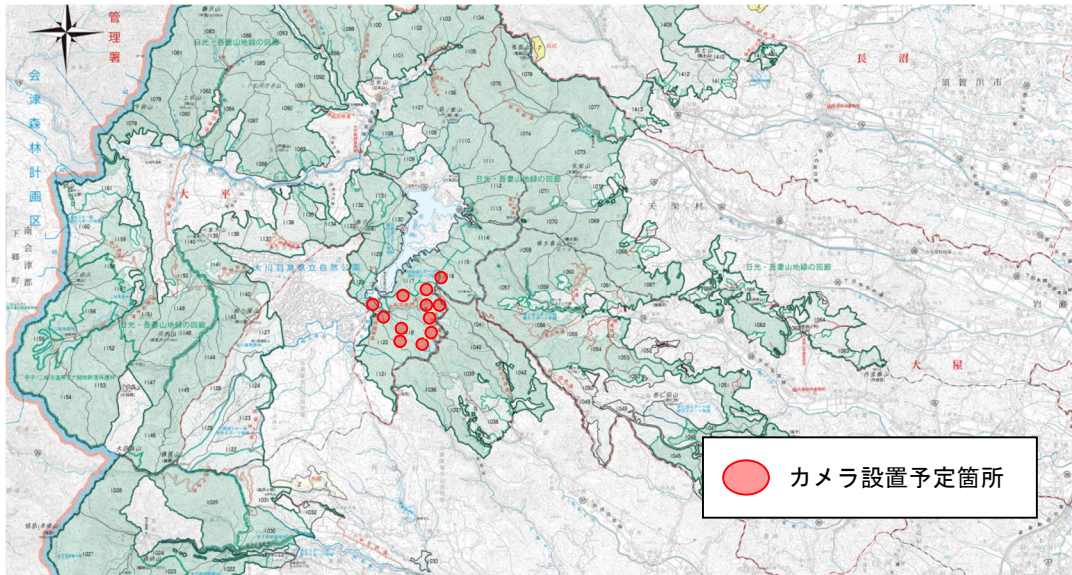


ニホンジカによる剥皮



ニホンジカによる採餌

また、令和8年度は、瞬間サンプリング法により個体密度の推定を実施します（令和7年度試行）。瞬間サンプリング法とは、自動撮影カメラを1km²あたり12台以上設置し、5分ごとのタイムラプス撮影を行い、撮影された野生動物の頭数を計測することにより個体密度の推定を行う手法のことです。推定結果については、今後の施業等に反映していきます。



瞬間サンプリング予定箇所



カメラの設置状況と撮影範囲のイメージ



R7.10.20（西郷村）

（7）カシノナガキクイムシによる被害

カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害は、以前から隣接署管内で確認されていましたが、当支署管内においても、平成30年度に古殿町で被害が確認されました。さらには、令和7年度に西郷村でも確認されるなど、被害の拡大が懸念されています。

被害対策として、令和4・5年度に、一部地域において立木くん蒸による被害木処理を実施しました。また、令和6・7年には、試験的に捕獲用シー

ト（かしながホイホイ）を設置し、秋にカシノナガキクイムシの捕獲状況を確認しています。



ナラ類 フラス発生状況



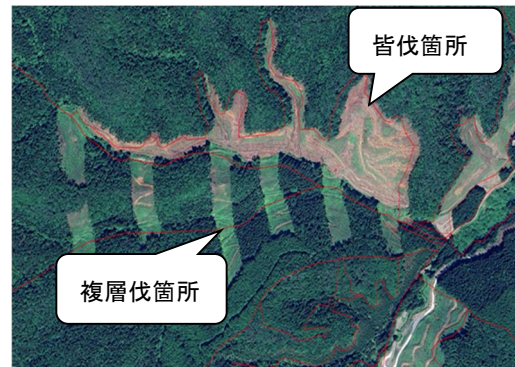
職員によるかしながホイホイの試験的な設置

(8) 多様な森林づくり

アカマツや広葉樹が優占してしまった造林不適地は、適地適木に配慮した更新方法や収穫除地とすることで、造林経費の削減、低コスト化を図り、林相の多様な森林へと誘導します。また、伐採方法も皆伐、複層伐と目的に合った方法を取り入れています。



造林不適地は、天然更新へ



皆伐箇所と複層伐箇所

以下の伐採箇所は、スギを植栽する計画でしたが、地元自治体から周辺の園地と一体的な活用を図りたいと要望があったことを踏まえ、景観の調和を重視し、広葉樹及びカラマツを植栽することとしました。



(9) 国民参加の森林づくり

国民による国有林野の積極的な利用を促進するため、ボランティア団体等が国有林を活用し、森林づくり活動などを行うことができる「国民参加の森林づくり」を推進しています。当支署管内においては、ボランティア団体等と6件の協定を締結しており、それぞれの団体が様々な活動を実施しています。

遊々の森「おもてごう天狗の森」は、平成20年10月に「おもてごう里山クラブ」と協定を締結したもので、「うつくしま百名山」にも選ばれている天狗山（白河市）において、植物の保護と一般の方々に山の魅力を楽しんでもらうことを目的としています。以来、19年間にわたり、森林整備や遊歩道の維持管理などの活動を継続して実施しています。また、同クラブでは、様々な山野草を楽しめるよう春から夏にかけて草花の観察イベントも開催しています。このような長年にわたる活動が評価され、令和8年度には、「森林レクリエーション地域 美しの森づくり活動コンクール」（(一社)全国レクリエーション協会主催）において、最優秀賞である農林水産大臣賞を受賞しました。



天狗山遊歩道案内図



カタクリの群生

ふれあいの森「赤面太郎の森」は、平成27年4月に「赤面山を緑にする会」と協定を締結したものです。当時、西郷村にある経営破綻したスキー場の跡地では、表土の流出が進み、地盤が露出した状態になっていましたが、地元住民の皆さんが地域の美しい風景を守ろうと「赤面山を緑にする会」を設立し、植生回復に取り組むこととしました。以来、11年間にわたり、毎年2回植林活動を継続して実施し、植生の回復に取り組んでいます。これまでにヤシャブシやハンノキなど、約3,700本を植林しており、参加者も年々増えて、現在では毎回100名以上を超える方々にご参加いただいています。このような継続的な取組が評価され、令和6年度には、“うつくしま、ふくしま。”環境顕彰を受賞、令和7年度には、関東森林管理局長感謝状が授与されました。



集合写真



植林作業

(10) 現地検討会の実施

伐採から再生林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」に向けた取組を推進するため、生産・造林事業の現地検討会を開催しています。令和7年度には、12月に「高性能林業機械」をテーマに現地検討会を

開催し、従来の重機では作業が困難な急傾斜地（最大傾斜45度）でも作業が可能な4輪多関節型作業機械“スパイダー”の操作実演を行いました。また、3月には、下刈り作業の省力化・軽労化や安全性の向上が図られる、「ラジコン式下刈り作業機」の現地検討会を開催し、当該機械の実演・操作体験を行いました。今年度も地元自治体の要望も踏まえ、現地検討会を検討しています。



高性能林業機械の現地検討会



ラジコン式下刈り作業機の現地検討

おわりに

白河支署では、「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用を確立するため、造林作業のコスト低減、効率的・効果的なシカ被害対策、地域の林業・木材産業の活性化に貢献するための木材の安定的・計画的な供給に取り組んでまいります。

また、林野庁において議論が進められていた、新たな「森林・林業基本計画」が、6月5日に閣議決定されました。新たな基本計画では、森林・林業・木材産業関係者が将来に希望を持って挑戦できる構造を確立し、先人が築いた我が国の森林資源の循環利用と多様で健全な森林づくりを着実に進めることにより、森林・林業・木材産業の好循環を生み出し、百年つづく「森の国・木の街」の実現を目指すこととし、国産材の利用拡大と幅広い需要の創出や、需要に応じた国産材の供給力強化、ゾーニングと森林の集積・集約化の加速などの施策に取り組むこととしています。

白河支署においても、新たな「森林・林業基本計画」のもと、引き続き、地域の皆様をはじめ、森林・林業関係の皆様の御意見・御要望をよくお伺いし、民有林と国有林で様々な形で密接な連携を図りながら森林・林業施策を進めてまいりたいと考えています。